

## カウンセリングを考える⑥ 親と子の関係

ヒステリー発作（過換気症候群）、リストカット、いじめ、引きこもり、自殺、殺人……。十代の若い世代の『心の歪み』が社会問題化しています。カウンセリングという言葉や知識は、この社会背景を受けて生まれてきたように思います。

カウンセリングではこうした若い世代の面接の場面で、親と子の関係についての話が明に暗にしばしば出てくることが多いです。どんなケースにおいても、子どもたちに共通する『隠れた思い』は「一番に理解して欲しいのは親」だということではないでしょうか。

子どもは発達段階の節目に“親の元に戻る”。そのときに、親（特に母親）が正面から体当たりでそれを受け止めて、認められれば子どもは安心してまた親の元を離れ、安定した精神生活を送ることができます。逆に親が（忙しさや煩わしさから）避けたり逃げたりすれば、子どもは心の拠り所を失い、不安定となります。私の主観ではありますが、親と子の関係は「今、ここに居る」子どもの状態が鏡となっているように思えてなりません。



カウンセラー 小林晶子